

政府の高齢者分 ワクチン配送スケジュール

4月5日 (月) の週	各2000人分	各1000人分
12日 の週	各10000人分	各5000人分
19日 の週	各10000人分	各5000人分

各都道府県が指定した市区町村が接種を実施

全1741市区町村に各500人分

6月末 65歳以上の高齢者全員
3600万人分の配送完了

*人数は1人当たり2回接種する場合の概数

4月高齢者ワクチン

各市区町村に500人分

必要量5%にも満たず

六十五歳以上の高齢者への新型コロナウイルススワクチン接種を巡り、政府は四月二十六日の週に全市区町村にそれぞれ約五百人分(二回接種)を送ると明らかにした。首相官邸のツイッターで一日夜、公表した。政府は高齢者接種の「四月開始」を掲げてきたが、当面はワクチン供給量が限られ、高齢者人口の多い自治体は接種対象者の大幅な絞り込みを迫られる。政府が対策の「切り札」とするワクチンは、各市区町村が接種を行うだけでなく、対象者の順番も決める自治体任せの運用となる。

政府は先月下旬、四月二十六日以降に発送を本格化し「すべての市区町村に行き渡る量」を配ると発表したが、具体的な数量は示していなかった。

六十五歳以上の高齢者人口は全国約三千六百万人。千七百四十一ある全市区町村に約五百人ずつでは、計約八十七万人分にとどまる。四月五日の週から三週間にわたり各都道府県に配る計約五十五万人分と合わせても、単純計算では必要量の5%にも満たない。政

「誰から打てば…」基準なく丸投げ

府は六月末までに全高齢者分のワクチン配送を完了させる計画だ。仮に各市区町村に約五百人分のペースで毎週配った場合は、六月末

新型コロナウイルスの高齢者分ワクチンが、四月の最終週から全市区町村に配送されるが、政府は自治体が接種対象者の順番を決めるための基準を明確に示していない。ワクチンを打つ人の順位付けを丸投げされた形の自治体は、困惑を隠さない。

東京都八王子市のワクチン接種担当者は、高齢者に届く接種券(クーポン券)について「どう配布すべきか検討しているが、答えが出ない」と、数量の限られたワクチンを住民に供給する難しさを語る。同市の人口約五十六万人のうち、六十五歳以上の高齢者は約十

13カ国からの帰国者 水際対策強化

政府は二日、新型コロナウイルス変異株の流行が懸念されるイタリアやオーストリアなど計十三カ国から帰国する邦人らに対し、水際対策を強化すると発表した。既に英国、南アフリカなどには同様の措置を取っている。五日から実施する。

対象国からの帰国者らには出国前七十二時間以内の検査証明や入国時の検査に加え、指定療養施設での待機や入国後二日目の再検査を要請。陰性だった場合、公共交通機関を使わず移動し、自宅などで入国後計十四日間が過ぎるまで待機してもらう。

十三カ国は、アラブ首長国連邦(UAE)、イタリア、オーストリア、オランダ、スイス、スウェーデン、スロバキア、デンマーク、ドイツ、ナイジェリア、ブラジル、フランス、ベルギー。

までの累計は九百万人程度となる。政府は日本にワクチンを供給する米ファイザー社の生産力が、五月以降に増強すると期待するが、十分な量を確保できなければ、計画が後ろにずれ込む可能性がある。

高齢者接種の開始時期を巡り、政府は当初三月下旬を想定していたが、河野太郎行政改革担当相が一月末に「四月一日以降」に修正した。医療従事者への接種は三月から本格化。対象者数は当初の見込みから百万人増加し、約四百七万人に上っている。(井上峻輔)

五万人。担当者は「年齢で区切ったとしても七十五歳以上が七万人いる。線引きが非常に難しい」という。

厚生労働省は都道府県に出した一日付の通知で、四月五日の週から十九日の週にかけて、都道府県を通じて一部の市区町村に配送するワクチンに関し、接種券の事前送付や接種実績の記録管理などの人的体制が整っている市区町村を選ぶよう指示したが、優先して接種する対象者を選ぶ基準は示さなかった。

接種券の送付を巡っては政府の誤解を招く情報発信もあった。首相官邸は一日夜、ツイッターで各市区町村への送付時期を「四月二十三日ごろ」と投稿。一部の市区町村には四月五日の週以降にワクチンの配送が始まるスケジュールのため、整合性の取れない内容となった。

河野太郎行政改革担当相は二日の記者会見で、このツイッターの内容について問われたが「接種券は柔軟に対応してもらわないといけない。どのように発送するかは自治体が戦略を立ててやってほしい」と答え、かみ合わない質疑応答となった。(坂田宗央)